

骨をさがして3iテクニック —機能的な患者の満足と 審美的な歯科医の満足—

宮城県仙台市 カズデンタルオフィス デンタルインプラントセンター仙台
朴沢一成

非常に多くの種類のインプラントがあり、どれを選択しようかと考える際に我々歯科医の頭を悩ませる。ジーシー社がインプラントを手掛けることになり、我々は非常に心強い味方を得ることになった。今までの他社の場合はその母体となっている会社が海外にあるために、日本のユーザーがリクエストをしてもなかなかそれに応じてくれなかったのが現状であり、今後のジーシーの対応が楽しみである。

ブローネマルクインプラントを手掛けるようになって、早10年以上が過ぎたが、患者さんのニーズは必ずしも歯科医側の満足にはつながらないことも多い。歯科医は自分の持てる技術の粋を尽くして歯科医と

しての最大限の審美的満足を得ることが患者の満足でもあるはずだと考えているのに、患者側は十分に機能すれば、みてくれはまあまあで良いので、あまり大げさな手術は嫌だと言う。

そこで、そんな筆者の歯科医としての満足感を得るために最近はこのように考えている。

「自家骨のベニアグラフトとかアンレーグRAFT、サイナスリフトとかスプリットクレストとかメンブレンの応用など様々なオプションは、患者の要求を満たすために患者さんの同意の上で行われるものである。また予期せぬ状況が失敗を生むことを避けるために、我々歯科医は身に付けておかね



ジーシー スクリューインプラントRe
セテオ®フィクスチャー(カバースクリュー付)

ばならない技術である。決して歯科医の自己満足の為に使うことで患者に負担をかけたりすべきではない」

今回、サイナスリフトとか骨移植の薦めにのってくださらない患者に対し、骨を求めて三千里ではないが、埋入可能な位置を探し、審美的な犠牲は了承いただいた上で、上部構造装着までに至ったケースを提示したい。

審美的に多少犠牲を払っても大きな外科処置を避ける方法として小宮山彌太郎先生が提唱している3iテクニックがある。サイナスリフトが必要と思われるケースで上顎骨の口蓋側の骨を利用する方法である。

症例

初診：63歳、女性。

主訴：前歯が動き痛む、上顎義歯がうまく咬めない。

既往歴：狭心症、高脂血症、慢性胃炎などで近くの内科に通院中のため、当該内科の主治医に文書にて病状について問合せし、現在の状況を把握するために検査依頼し、内科主治医と協議した後に、麻酔科の管理のもとでオペを行った。



1 初診当日の口腔内正面観(義歯装着)。12は初診時に動揺が著しく、抜歯となり、即時に増歯をした。右下臼歯部には咬合高径の回復のためにTEKが装着されている。



2 上顎咬合面観(義歯装着)。前歯人工歯はやや口蓋側に排列されており、十分なリップサポートがない。



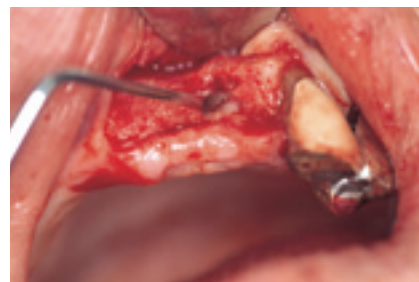
3 上顎咬合面観(義歯非装着)。52部分の唇側は骨が薄いことが予想される。



4 初診当日の下顎咬合面観。初診時に下顎の右側には咬合高径の確保のためにTEKが装着されている。



5 初診時のパノラマX線写真。|2部と|5部は十分な骨幅だが、|4|1部は薄い。|5部は幅高さとも十分だが|6部には十分な高さが無い。



6 抜歯時に十分な搔爬を行っているが、埋入時にさらにしつこく搔爬を行う。その際に使用するのは、ミラーキュレットが大変使いやすい。



7 UL1とUL2を埋入。UL2はのちに角度付きアバットメントを使用することを想定し、やや深めに埋入した。



8 左側上顎埋入部。十分な骨幅があるが、高さが……。



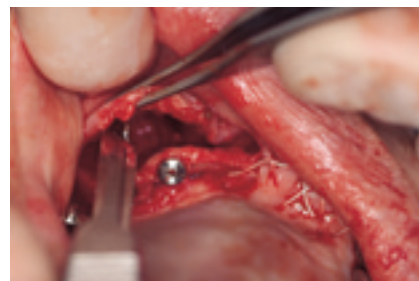
9 上顎洞底部皮質骨と歯槽骨との距離が足りない。洞内部を良く見ると真っ黒ではなく、やや薄く骨の模様が見える。この事が口蓋側への誘いである。



10 UL3、UL4ともに口蓋側の骨を捕らえて傾斜埋入。UL5は上顎結節部を利用した傾斜埋入を行うことでサイナスリフトを回避できた。



11 術前診査で骨幅がないことが予想されていたが、その通りの結果であった。



12 移植骨にテンションがかからないように減張切開を行う。



13 UR1、UR2を最後に埋入した。予想通り、頬側に裂開部を生じた。



14 トラップにて採取しておいた骨の削片。(唾液に触れないように十分に注意を払う)



15 裂開部にトラップで集めた骨を適応した。骨内から十分な血液供給が受けられるように頬側の骨壁にラウンドバーによる穿孔を行っている。



16 粘膜の治癒後の口腔内所見。何事もなかったような状況である。この間の我々の仕事は神に祈るのみ!



17 二次手術後、フィクスチャーレベルのプロビジョナル作成のための印象採得を行う。



18 傾斜埋入部の拡大像。UL3、UL4、UL5の傾斜埋入の方向が良くわかる。



19 二次手術直前のパノラマX線写真。上顎洞を避けながら十分な長さで十分な本数が埋入できた。



20 上部構造装着後の口腔内。UL2、UL3、UL4には角度付きアバットメントを用いた。